

バラは時期に関係なく、さまざまな品種が楽しめる花なので、組み合わせる花材で季節感を演出して楽しんでください。紹介するアレンジメントはいずれも、ホームセンターなどで購入できるスポンジの上に、庭など身近な場所で採取できるコケを敷き詰め、ベースにしています。

スプレータイプのトピアリー



使用している花
 バラ…リディア、ラプリーディア、フレア
 その他…ヒベリカム、スプレー菊、アイビー

バラのかわいらしさを引き立てるトピアリーです。丸型のスポンジに、短くカットしたバラを隙間なく挿していきませんが、アクセントとして白のスプレー菊を入れるのがポイントです。全体を見ながら、バラの色や大きさのバランスを考えて配置していきましょう。丸型スポンジを支える棒状のものには麻紐を巻いて雰囲気を出しています。ベースには季節や好みの花や葉を挿してみるといいでしょう。

高さと空間を活かすアレンジメント



使用している花
 バラ…アップパーピンク、プロッサムピンク
 その他…アジサイ、コデマリ、オーニソガラム、アイビー

バラの長さを活かした、華やかで高級感のあるアレンジ方法です。2種類のバラをあえて高低差をつけて配置することがポイント。全体を見ながら長さを調整し、花と花の間の空間も大事な演出の要素なので、バランスを考えあまり密集させないように配置してみましょう。

切り花やアレンジメントを長持ちさせるコツ

品種やお花の質によって花持ちの程度は様々ですが、気温や室温などの環境、水やりやお手入れの仕方によって花持ちは大きく左右します。

コツ1 水切り

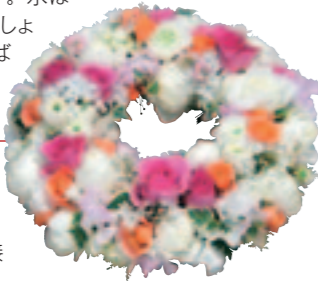
飾る前には水を入れた容器の中で茎を切る「水切り」を必ず行いましょう。はさみやカッターなどで切り口を斜めスパッと切り、水を吸う面積を広くすることがポイントです。

コツ2 新鮮な水

長持ちさせる工夫として台所用洗剤や10円玉などを入れるより、こまめな水替えが最も重要です。水は常に新鮮な状態に保っておきましょう。水替えの度に水切りをすればなお良いです。

コツ3 置く場所

バラは高温になりすぎないように直射日光に気をつけながら、風通しの良い場所を選べば長く楽しめます。冷暖房の風が直接当たるところも避けましょう。



バラ産地マップ

おおいたの旬がくる。その恵みに感謝して…



あなたの思いをカタチに。

しゅんくる

<http://theoita.com>

vol.16





国東に花開いた、温室育ちの“箱入り娘”

バラ

出荷時期
周年

日常に彩りを添えるだけでなく、人生のさまざまなシーンを演出してくれる花。とりわけバラは華やかで、多くの人から愛されている花です。大分県では各地でそれぞれの地域の気象条件を活かし、数多くの品種が年間を通じて栽培されています。

国東市の小懸一興さんはバラ栽培を始めて15年目。全部で55アールの鉄骨ハウスの中で約30品種を育て、年間30万本を出荷しています。国東市は温暖な気候に恵まれた地域で、冬でも日照量が多いことから、季節を問わず美しいバラを咲かせることができます。

特殊な栽培技術と丁寧な手作業

バラは土に直接苗木を植えるのではなく、栄養と水を含んだ「ロックウール」というスポンジ状の培地に苗木を植えて育てます。連作障害がなく成長が早いことから、大分県ではこの水耕栽培がバラづくりの主流になっています。さらに、一

部の枝を折り曲げて育てる「アーチング」の技術も取り入れ、品質の良いバラを周年栽培しています。

一つのハウスの中には複数の種類のバラが植えられ、色とりどりの花の間での作業が続きます。出荷前の収穫作業、美しい姿にするために孫芽と呼ぶつぼみを摘み取る作業、時にはとげで手に傷をつけながら丁寧に行います。「毎日の管理と丁寧な仕事。これがバラづくりの基本」と小懸さん。液肥の量や与えるタイミング、期間など、それぞれのバラの状態に合わせることで、花の良し悪しだけでなく、葉の色付きや鮮やかさに影響します。気温や天候の影響を受けやすいデリケートなバラなので、常にハウスの温度と湿度に気を使っています。

好みの品種で、もっと身近に

花持ちが良く、一本一本がしっかりしていると評判の小懸さんのバラですが、その理由は、とことん丁寧な作業と鮮度

保持へのこだわりにあります。少しの間でも鮮度を落とさないよう、収穫したバラはすぐに専用の冷蔵庫に入れます。サイズを揃えたり、余分な葉を落とす選花作業では、品質を確かめながら手作業で行い、花を傷めずに届けられる専用の水が入った縦箱へ。箱詰め後も集荷車が到着するまで冷蔵庫に保管するという徹底ぶりです。小懸さんのバラはJAを通じて関西を中心に出荷されています。

毎年のように新品种が発表され一萬種以上あると言われるバラです。「色や形もさまざまある中で、好みの品種を見つけてもっとバラを楽しんでほしい」と小懸さん。手塩にかけて大事に育てた、まさに“箱入り娘”のようなバラたち。日本各地のさまざまなところへとびよりの感動と笑顔をお届けしています。



ロックウールに挿し木して作られている苗木。



日中は18℃、夜間は15℃程度に保たれた快適なハウスの中で、バラは大切に育てられている。



「栽培するバラの品種は、消費者の好みやニーズを見ながら選んでいきます」と小懸さん。



出荷前には一本一本丁寧に選別し、余分な茎や葉を落としていく。



自宅付近のハウスに加え、JAおいた国東事業部の花き団地でもバラづくりを行っている。



小懸さんは、父・章正さんと母・多津子さんとともにバラづくりに励んでいる。

